

交 流 通 信



このコーナーでは、国内外合わせて7つある田原市の姉妹・友好都市などの情報をお届けします。

▶企画課 ☎ 23局3507

姉妹都市 設楽町との交流

「姉妹都市・設楽町をもっと知り、もっと学ぼう!」と開催した、毎年恒例の「設楽町体験ツアー」。田原市から参加した32名の皆さんに、設楽町についての理解を深めていただきました。

「体験づくりの2日間」で、まずは設楽町を知ろう!

田原市からバスに揺られること2時間半。6月23日~24日、姉妹都市・設楽町に降り立った参加者の皆さんは、設楽を知るためのさまざまな体験をしてきました。

約2年後の収穫を目標に菌を打った「シイタケ栽培体験」や、慣れない工具にとまどいながらも家族やグループで協力し合った「間伐材製イス作り体験」、津具森林組合との交流会で振る舞われた五平餅を囲んでの「設楽名物体験」。見たり聞いたりするだけでなく、身体で感じることによって、設楽町への親しみを深めました。



▲間伐材を利用したイス作りに挑戦しました。

設楽町とのつながりを、実際に「目で見て」学ぼう!

皆さんは、田原市と設楽町の「つながり」について考えたことがありますか? 場所は少し離れていますが、実はたいへん重要なものでつながっているんです。それは「水」。地形的に水の自給が難しい渥美半島では、上流域である設楽町などから届けられる「水」に頼らざるを得ません。田原市の農業や工業の発展も、この「水」あってこそなのです。

今回ツアーに参加した皆さんは、設楽ダム建設に伴う水没予定地を見学してきました。移転を余儀なくされる約120戸の家屋や、ダム建設計画の都合で遅れてしまっている道路整備の状況など、上流域に住む人たちの苦労を実際に見ることによって、感謝し、互いに理解を深めていかなければならないことを学んできました。



▲設楽町などの上流域から届けられる水によって、田原市の農業や工業は支えられています。

体験メニューのうち
のひとつ、イス作

り体験で使用した**間伐材**。実はこれも、田原市と設楽町を結ぶ「水」と深い関係にあるんです。

間伐とは、森林を保全するため、生育状況の悪い木を伐採し、残った木の生長を促進することです。間伐をしなければ、山への日当たりや風通しが悪くなってしまうため、高齢木の確保が難しくなります。高齢木は、渇水時でも根や幹に溜め込んだ多量の水を少しずつ流すことで、河川の流量を一定に保つ「天然のダム」の役割を果たしています。

間伐によって得られる**材木 間伐材**。積極的に活用することは、みどりのダムを育てることにもつながっているんです。

